

これまでの無駄削減の取組みについて

平成26年5月13日

1. 取組経過

平成21年7月1日、無駄削減プロジェクトチームの発足
チーム設置規定に基づき、平成21年度取組方針を策定
当該取組方針に従い、各部署の自己点検の実施及び他部署への要望事項の提出
以降毎年、自己点検結果等をホームページに公表。

2. 主な節減結果（対前年節減額）

（1）平成22年度

- ・ 耕洋丸・天鷹丸におけるドック費用(△16,366千円)
- ・ 耕洋丸・天鷹丸の船舶燃料費(△5,963千円)
- ・ 耕洋丸・天鷹丸における自前の塗装による経費の削減(△5,000千円)
- ・ 本部で使用の電気料金(△3,1%、1,442千円)
- ・ 契約職員による公用車の運転業務の廃止(△1,219千円)
- ・ 天鷹丸の通信衛星等の電話経費の携帯電話使用への移行による節減(△150千円)
- ・ 郵便料金よりも安価なメール便を利用したことによる節減(△130千円)

（2）平成23年度

- ・ 耕洋丸・天鷹丸における自前の塗装及び機器の分解整備による経費の節減(△3,500千円)
- ・ 学生寮の給食業務の受益者負担による経費の削減(△約10,000千円)
- ・ 庶務課契約職員の削減(△1,000千円)
- ・ 電気料金の5カ年の長期契約の締結による削減(△1,253千円)
- ・ 建物5か所への個別メータの設置による使用量の把握による節減努力
- ・ 7～9月の夏期電力使用量の削減(前年同期比△15.4%)
- ・ 学生寮の電気・水道料金の全額受益者負担による経費の削減(△3,190千円)
- ・ 学生コミュニティーホールの食堂で使用する電気料金について、使用者である生協も応分の負担を行う。
- ・ 競争性を高めるための入札等の契約方法の見直し
- ・ 両面印刷・コピーによるコピー用紙の削減等

（3）平成24年度

- ・ 耕洋丸・天鷹丸による自前の塗装及び機器の分解整備による経費の節減(例：揚錨機の分解整備により△2,500千円)。天鷹丸にて燃費向上効果のあるサンドブラスト加工を船体の一部で実施
- ・ 耕洋丸・天鷹丸において可能な限りの低負荷運転・低速航行の実施、陸電経費の節減。
- ・ 7～9月の夏期電力使用量の削減(平成22年度同期比△8.9%)

- ・多目的学生教育棟に本校の許容範囲内（50 kw）で最大容量の太陽光パネルを設置
- ・本館窓辺でのグリーンカーテンの実施、大学祭開催時等において講義棟エレベーターの電源を切るなど省エネ対策を実施
- ・メール会議の励行等による業務の効率化
- ・教職員派遣料等の依頼者からの収受が可能となるよう規程を改正。

（４）平成25年度

- ・7～9月の夏期電力使用量の削減（平成22年度同期比△10.8%）
- ・耕洋丸・天鷹丸において可能な限りの低負荷運転・低速航行の実施、陸電経費の節減
- ・耕洋丸・天鷹丸で共通して利用する消耗品を一括購入することによる経費の節減
- ・遠洋航海中のインマルサット等を利用した高額なデータ通信の自粛
- ・航海中に必要な医薬品を成分が同じ安価な薬品へ移行
- ・メール会議の励行等による業務の効率化、会議資料の電子化によるペーパーレス化

3. 今後の対応

今後とも21年度に策定した取組方針に従い、各部署の自己点検を継続的に実施するとともに、支出の無駄の削減や業務の効率化・簡素化のための取組を進める。